

## 令和元年度第3回知立市子ども・子育て会議 会議録

日時：令和元年10月30日（水）

午前14時00分から

場所：中央公民館 中会議室

### ■委員出席者（計16名、敬称略・順不同）

蔭山英順、竹本有基、北村信人、川合大一郎、草本美代子、石原國彦、中井まゆみ、岩田直子、船戸早香、永田久枝、山本幸子（代理）、山村孝幸、清水雅美、宇野成佳、大森尚、朝倉信哉

### ■委員欠席者（計3名、敬称略・順不同）

豊田かおり、太田啓吾、福井信也

### ■事務局

【福祉子ども部】 長谷

【健康増進課】 加藤

【学校教育課】 本多

【子ども課】 松永、渡辺、小林、都築、加藤、伊藤、宮内、野畑

### ■開会

---

（事務局：子ども課長）

おはようございます。まだお見えになっておられない方がいらっしゃいますが、時間になりましたので始めさせていただきますと思います。

皆様、本日はご多用なところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日の会議は知立市審議会等傍聴要領の規定に基づきまして、会議を公開としております。傍聴者の入場が可能となっておりますのであらかじめご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

私は本日の司会を務めさせていただきます子ども課長の松永と言います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、市長より挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

（市長）

おはようございます。本日は、ご多用の中お集まりいただきありがとうございます。

この間の日曜日に大運動会が知立小学校で行われまして、市内すべての町内会が参加し、多くの市民の皆様に参加いただきました。市民運動会にはたくさんのお子どもたちも参加していただいている、子どもたちがこういった場に参加してくれることによって、地域のきずな、結束力

が強くなっていくということ、子どもは地域コミュニティの要で、地域を支えている存在だということに改めて感じております。

あわせて、1週間くらい前に知立市子ども議会が開催されました。子ども議会は毎年開催されていて、もう十数回となるのですが、各中学校の中学3年生が集まって、議場の上で色々な質問をいただくわけですが、例えば、これから高齢社会に向けてミニバスをもっと活用したらどうだという意見もありますし、太陽光パネルを災害時等にもっと活用できるようにしてはどうだといったご提案もいただきました。そのほかにも、ちゅりっぴをゲームですとか、観光案内に活用してはどうかというご提案もありました。ちなみに、昨年、子ども議会において、ちゅりっぴポストを作ったらどうだという意見がでまして、市役所の前の郵便ポストをちゅりっぴポストとしました。設置当日は、今は高校生になっているのですが、提案してくれた子どもも参加してもらったということがございます。子どもは地域コミュニティの要であり、未来の知立、日本を支えていく存在ということで、やはり子ども・子育て支援をしっかりとやっていく必要があると改めて感じております。

いままで第2期の知立市子ども・子育て支援事業計画を議論していただき、本日は第3回の子ども・子育て会議ということでございます。本日も素案を検討していただくこととなりますが、有意義な会議としていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局：子ども課長)

続きまして、資料の確認をお願いいたします。机の上に委員名簿を配布させていただきました。裏面に席次を印刷しておりますのでご確認ください。

### <資料の確認>

(事務局：子ども課長)

本日の会議におきましては、皆様に第2期子ども・子育て支援事業計画につきまして協議いただきます。この会議で承認いただきましたことをもとに、パブリックコメントを行う予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日は、医師会代表の豊田委員、保育園保護者代表の太田委員、小中学校校長会代表の福井委員の3名の方から欠席のご連絡をいただいておりますので、ご了承いただきたいと思います。

委員総数19人のところ、本日の出席委員は16人で、その過半数に達しておりますので、知立市子ども・子育て会議条例第5条の規定により、ただ今から、令和元年度第3回知立市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

それでは蔭山会長よりご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたします。

(蔭山会長)

はい。本日の会議で第2期子ども・子育て支援事業計画の協議を行って、パブリックコメントの実施にもっていくということでございます。私もそうですけれど、市民が行政の計画書をしっかりと読むというのはなかなかないことだと思います。ですので、なかなか市民には浸透しないと

いったことがあります。そこを少し工夫して、わかりやすい計画書にしていかなないと意味がないのではないかと思います。計画の内容も当然ですけれど、市民にわかりやすい計画書といった視点からも検討していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局：子ども課長)

ありがとうございました。

これより議題3の協議事項に入りたいと思います。ここからの会議進行につきましては、蔭山会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(蔭山会長)

はい。それでは、議題3の協議事項「第2期知立市子ども・子育て支援事業計画について」に入りたいと思います。事務局から報告をお願いします。

## ■協議

---

### (1) 第2期知立市子ども・子育て支援事業計画について

#### <資料に基づき事務局説明>

(蔭山会長)

ご説明いただいたことについて、何かご質問やご意見ございますか。

(石原委員)

素朴な質問ですが、資料1-4の量の見込みの算出のところの人口推計について、令和2年の0歳児は令和3年の1歳児、令和4年の2歳児となっていくわけですが、その数値を追ってみると年々大きく減少しているようです。5歳児、6歳児とかも減少傾向にあるのですが、0歳児の減少だけが大きいような気がします。その理由をお聞かせいただければと思います。転出してしまっただけで減少するというのでしょうか。

(事務局：子ども課長)

この計算式はコーホート変化率法を利用していますので、過去の実績等に基づくものとなっております。減少の理由として転出ということも言えると思いますが、少し数値が大きいとも思います。少し調べますのであとで回答させていただきます。

(蔭山会長)

今調べるということですので、他に質問ありますか。

(北村委員)

今のご意見についてですが、平成27年から平成28年と減少が見られているのでその減少率が関係していると思います。ですので、そんなにおかしい数値ではないと思います。

(事務局：子ども課長)

はい。今調べたところ、平成27年からみていただくと、知立の場合は0歳児の減少が大きいという実績がありますのでそれによる数値ということです。

(石原委員)

そうかなとは思っていましたが、0歳児で転出が多いということは、知立市のこの年代に対する子育て支援策が不足している、他の市の施策が充実しているから転出が多いということなのか、他に理由があるのか、どうなのでしょう。

(事務局：子ども課長)

ご指摘いただいたとおり、子育て世代の転出が多いということは、知立市の総合ビジョンでも示されているところです。これは小さいお子さんというより、小学校に上がるくらいのお子さんがある家庭が持ち家を買われる時期にあたるということで、転出が多い傾向がみられるのですが、知立の現状をみますと、値段的に買える家がないということもあり、転出する方が多いという分析をしています。小さいお子さんも減っていくことをみますと、小学校に上がるくらいのお子さんに小さなきょうだいがおられて、一緒に転出しているということじゃないかと考えています。ですが、今言われたとおり、この世代の転出を防ぐというのは重要な課題だと思っております。

(石原委員)

転出の理由は子育て支援にあるのではなく、持ち家の問題、将来の生活設計にあるということですね。

(事務局：子ども課長)

アンケート結果をみますと、就学前のお子さんのご家庭については満足度が高いのですが、小学生のお子さんの家庭については、大きなグラウンドがないですとか、満足度が低い傾向がみられましたので、小中高のお子さんに対しては少し問題があるのかなと考えますが、就学前のお子さんの子育て支援に対してはそれほど大きな不満はないと考えています。

(石原委員)

そうすると、子ども・子育て施策ということでなく、また別の施策を考えていかななくてはいけないということですね。

(蔭山会長)

転出の要因は複合的ですので見極めるのは難しいと思いますが、それを抑える行政的努力は必要だと思います。今、知立市では転出する際に転出理由は聞いているのですか。

(事務局：子ども課長)

はい。転出時に理由もお尋ねしているようです。

(蔭山会長)

そうですか。それではその理由はおさえられるということですね。

(北村委員)

転出する人のほとんどが転居ということは日常で感じています。

それと、前回の会議でも言ったのですが、12ページの「子育ての一義的な責任は親にある」というところ、文章全体は修正されていたのですが、やはり「子育ての一義的な責任は親にある」という文言が残っているのがひっかかります。社会全体で子どもを育てる、子どもは親の私物で

はないというのが世界基準となっている今、この文言が本当に適切なのか疑問に思います。あと、1 ページのところ「幼児教育・保育の無償化は、幼児教育の負担軽減を図ることで、すべての子どもたちに質の高い教育・保育の機会を保障し、」とありますが、無償化で質は高くなりません。ですので、できればこの文言を削除してもらえればと思います。

それと、施策の内容は、「努めます」とか「実施します」とかでなく、具体的にどうするのが見えないため、結果がみえてこないと思います。もうひとつ、計画書の施策のうち、どの施策が継続でどの施策が新規の取り組みかがわかりません。それに、子育て支援の充実とあるのは何を充実するのか、周知とあるのは何をどうやって周知するのか、周知度を何パーセント上げるのか、具体的な数値を示して取り組んでいかないと計画としてどうなのかなと思います。13 ページの(3)に「教育・保育の質の向上と体制の整備」とありますが、ここも評価基準がないのでどう整備していくのかがわかりませんし、学校教育も対象であるのにそれが入っていないのも気になると思います。質の向上を目指す具体性がみえてこないのがどうかと思います。

次に25 ページに「乳幼児健康診査の充実」とありますが、こういった健診の情報は保育所に全然入ってこないのので、保育所と情報共有して、というかたちにしていただきたいと思います。

27 ページの家庭訪問事業についても何回ぐらい行っているのか、それによってどんな効果があったのか、きめ細かなというのがどこからどこまでかといったことがわかりません。

あと31 ページの人権問題のところ、「人権問題の周知啓発」とありますが、小学校でどんな教育をしているのかとか、具体的なことがわかりません。

(蔭山会長)

たくさんのご指摘がありました。事務局から説明をお願いします。

(事務局：子ども課長)

たくさんありましたので、全部答えられるかどうかわかりませんが、まず1 ページの無償化の表現ですが、ここは国が示す目的ということでご理解いただきたいと思います。

それと、「子育ての一義的な責任は親にある」という表現については前回の会議でもご指摘をいただきまして、内部で検討した結果「子どもを育てることは、第一義的にはその保護者の責務ですが、子どもは地域社会の宝であり、かけがえのない大切な存在です。」という言い回しに変更させていただきました。このようなかたちで、できればご理解いただければと思います。

それから新規事業がわからないということについて、前回の会議では計画に★印で新規事業を示しており今回は削除したのですが、今回のご指摘を受けて、やはりわかったほうが良いということで、印をつけるかたちに戻したいと思います。

子ども課の関係はこのくらいかと思います。健康増進課から何かありますか。

(事務局：健康増進課)

きめ細かなというのがどこからどこまでかわからないというご指摘がありました。表現上の言葉の問題になると思うのですが、それぞれの状況に適した支援に対し「きめ細かな」という表現を使っていて、杓子定規的な画一的な対応ではないということ表現しているものです。健診

結果の情報についてもご指摘がありました。個人情報の問題もありますので、すべての情報を共有するというのは難しいと思いますが、現時点でも保護者の同意を得ながら、支援が必要なお子さんに対しての情報共有は行っている状況です。

(事務局：学校教育課)

学校としての人権教育の取り組みという点ですが、知立市では「知立市小中学校人権教育研究会」なるものがありまして、さまざまな人権教育についての研究を行い各学校で実践していくという方法で行っております。特に実践力というものを意識しながらやっておりますので、すべての学校生活、すべての教科で人権につながる取り組みを行っています。実際に教育がどこまで子どもたちが理解して望ましい姿になっているかということについては別の問題があるわけですが、このようなかたちで子どもたちの人権感覚を養う教育、指導者の人権感覚を向上させる取り組みを進めています。また、毎年12月の人権週間には、各学校で映画を見たり、人権に関する話をして下さる講師をお呼びしたりですか、そういった取り組みを行っています。

(事務局：子ども課長)

あと、全体的に「努めます」とか「検討します」といった言葉については、推進に向けて本当に努力してまいりますので、今のようなかたちで何とかご理解いただきたいと思います。

(永田委員)

北村委員がおっしゃった12ページの計画の考え方のところですが、「子どもを育てることは、第一義的にはその保護者の責務ですが、子どもは地域社会の宝であり、かけがえのない大切な存在です。子育ての環境が大きく変化する中、地域全体で子どもの安全を」の「子どもの安全を」を「子どもの成長を」に変えた方がいいと思います。そうすると北村委員がおっしゃった地域が子育てをしていくというニュアンスが入るのではないかと思います。安全だけでなく、成長を地域全体でみていくとしたほうがよいと思います。

それと、地域における子育て支援サービスの充実のところ、例えば育児ノイローゼとか、そういった問題への対応として、地域の民生委員の方とか主任児童委員の方との関係を計画書に書いておくとう分かりやすいと思います。他の地域では赤ちゃんが生まれると児童委員も訪問して、何かあったら私たちに声をかけてください、ということを行っています。こういったことが計画書で示せば、北村委員がおっしゃった具体性というのが示せるのではないかと思います。

それから、東小学校の1年生の活動に参加させていただいたのですが、今回はじめて感じたことなのですが、日本語がわからない子がたくさんいました。これまではそうではなかったのでは何かと思って聞いたら、保育園に行っていない子どもも多くて、その未就学の子どもたちに対して日本語教育がなされてなくて、日本語が話せないということみたいです。新聞にもありましたが、全国の外国人の3割が愛知県にいて、愛知県では知立市の外国人の割合が一番高くなっているので、そこに対する支援が必要だと思います。就学後はかきつばた教室があって3か月の間、日本語教育をしてもらえるのですが、未就学の子どもに対する支援を考えたいただけたらと思います。

もうひとつ、放課後児童クラブではいじめの問題は発生しているのでしょうか。

(事務局：子ども課長)

文章の言い回しについては検討をさせていただきます。あと、赤ちゃん訪問のところ、民生児童委員さんが家庭を訪問するということについては、知立市ではそういったことは実施していない状況ですが、今後、民生・児童委員さんの活動との調整を図りながら、そういったことを話し合っていけたらと思っております。外国人のお子さんのお話については、保育園に通っているおさんは、日本語でコミュニケーションをとっているお子さんも多くて、覚えるのは早いのかなという印象はありました。ですが、未就園のお子さんには日本語がわからないという問題もあると思います。先ほど言われたとおり、知立市は特に外国人が多いということで、計画書 5 ページのところにもあるようにその数も増加傾向にあり、全体の子どもの数の 8.5%が外国人となっています。人口全体で考えますと 7.1%が外国人となっていますので、大人よりも子どもの方の比率が高くなっています。そういったこともありまして、就学前の外国人児童に対する教育は大きな課題になっているという認識でございます。放課後児童クラブについては常に職員がおります。大人の前ではということもあるのですが、子ども同士のけんかはありますが、いじめの報告は受けておりません。

(永田委員)

それと、私の友人のお嫁さんが育児ノイローゼで自殺をしてしまったのですが、知立市では育児不安に対する取り組みがたくさんあってそういったケースがないので、大変よいことだと思います。

(事務局：健康増進課)

自殺の関係につきましては、昨年度に「知立市こころ応援計画」ということで自殺対策となる計画を策定しております。知立市の自殺者数は 10 人から 15 人くらいということで、交通事故死亡者よりは多いという状況でありますので、けして他人事ではないという認識はあります。子育てにつきましては、にじいろニコニコ事業ということで、早くから妊娠期から子育て期の支援に取り組んでおり、気になる方については面談や訪問をするなど、個別フォローを積極的に推進しております。

(蔭山会長)

知立市では外国人の子どもの割合がとても多いということですが、今回の計画では外国人に対する施策は従来通りですよね。やはり色々と考えて、新しい策を考えないといけないと思います。日本人の問題も大きいと思いますが、外国人が多い知立市ですので、ぜひとも新しい施策を考えていていただきたいと思います。それと、先ほどの 5 ページの説明について、ここの数値をみると 11 歳までの数値となっていますが、児童福祉法では 18 歳までが児童にあたります。ここが 11 歳までだと 11 歳までの支援しかしないように見えるので、ここのデータも 18 歳までとしてほしいと思います。データはありますよね。

(事務局：子ども課長)

はい、あります。今のご意見を受けまして、5 ページのデータは 18 歳までのデータに差し替えたいと思います。また、外国人のお子さんへの支援ですが、市の方でもどのように取り組んでい

けばいいか色々考えているところであります。そのなかで、今年からはじめたことですが、昭和児童センターにタガログ語の通訳を配置して、親子教室とかそういった支援をしています。また、10月からポケットークという外国人の方を話せるツールを19台購入しまして、保育園とか市の窓口とかいったところで活用をしていく予定です。ですが、こういった施策をすればよいというのがなかなかなくて、模索しながら考えてきたいと思います。

(蔭山会長)

ひとつは先ほどあったように、幼児期から日本の文化や日本語になじむといったことが重要だと思うので、家庭訪問だけでなく、保育所・幼稚園に就園させる推進策が必要だと思います。外国人のご家庭は経済的な問題もあると思うので、なかなか難しいかと思いますが、日本語をどう教えるかだけでなく、そういったことも考えていかないといけないと認識していただきたいと思います。

(北村委員)

先ほども言いましたが、やはり「周知する」といったことだけではなかなか進まないところもあります。それと12ページの「一義的」という表現がやはり気になっていて、計画書に書いていると子育ての責任は親にある、ということ周知することになってしまうので、それはやめた方がよいと思います。地域で成長を見守るという表現はいいと思うのですが、子どもの人権は親によって支配されません、ということ明確にしてほしいと、個人的には思います。

また、子育て中の男性への支援というところがあったと思うのですが、知立市の企業に対し、お父さんを早く家に帰らすように、といった啓発とか、そういったことも行政側から取り組んでほしいです。

あと35ページに子ども食堂支援事業についてですが、知立市でいくつあるのか把握されていますか。

(事務局：子ども課長)

1つです。

(北村委員)

何人くらい参加しているのですか。

(事務局：子ども部長)

西町の公民館1回、南陽区で1回、そのほかでも1回やっていると思いますが、運営がなかなか難しいので、その後は実施できていないと思います。参加者は、西町の公民館でやったときは50～60人ぐらいです。

(北村委員)

それはどういった層の人が参加しているのですか。

(事務局：子ども部長)

いろいろPRはしているので、親子連れでいっぱいです。ただ場所によっては、ちょっと人数が少なかったところもあります。

(北村委員)



知立市にとって必要性があるのかというところはどうですか。

(事務局：子ども部長)

子ども食堂は今後福祉課の方で推進していくのですが、今、子ども食堂について援助がしたいというお話がありまして、今後具体的な話し合いをしまして、どのような援助ができるかななどを検討していく予定です。

(北村委員)

本当に必要なか調査があるのかなと思うのですが、知立の貧困家庭の状況はどうなっているのですか。

(事務局：子ども部長)

県の割合で 5.8%です。知立市独自では数値の把握はしていません。来年、再来年で地域福祉計画を策定する予定ですので、その中で子ども食堂についての議論をしていく予定にしています。

(北村委員)

貧困家庭の数がひとつの基準となると思うのですが、知立市の数は分からないのですね。

(事務局：子ども部長)

知立市としての調査はしていません。

(北村委員)

あと、子どもの自殺は知立市では発生していないのですよね。

(事務局：健康増進課)

今データが手元にないので、ちょっとお答えできないです。

(北村委員)

あったとしたら噂になっているのでないと思いますが、どうなのかと思って尋ねました。

(事務局：健康増進課)

データがないので正確には言えないのですが、知立市の自殺者は上の方の年齢が多かったように思いますので、小さい子どもの自殺はないように思います。

(蔭山会長)

私の記憶ではないと思います。

(北村委員)

それと、35 ページの奨学金ですけど、知立市ではどのくらいの人が利用しているのですか。

(事務局：子ども課長)

今日は担当がいないのでわかりません。すみません。

(永田委員)

知立市の奨学金は無料ですか。それとも返済が必要なのですか。

(事務局：子ども課長)

無料です。

(北村委員)

それは中学生までですか。

(宇野委員)

知立市が行っているのは高校1年生から高校3年生です。

(北村委員)

あと、53 ページの計画の評価・検証のところ、「計画・実行・評価・改善のPDCAサイクルを活用し、点検・評価に基づき、」とありますが、誰が点検・評価を行うのですか。

(事務局：子ども課長)

子ども・子育て会議の場で評価していただく予定です。

(北村委員)

そうですね。でも数値がないので、何%達成したとか、評価やチェックができないですね。

(事務局：子ども課長)

チェックの方法等は今度の検討としたいと思っています。進捗の状況については、前回の会議でご説明したとおり、ひとつひとつの事業について何年度にこういうことができたということを数値含めて資料で示しています。

(北村委員)

それと心配しているのが、今後母親の就労が増えた場合、0・1・2歳の保育の枠が確保できているのかということです。新しい園をつくるということでしたけれど、それでも足りないのではないかと思います。

(事務局：子ども課長)

待機児童のお話だと思いますが、逢妻保育園を乳児園に変える方向で進めています。令和4年度までに0・1・2歳を39名増員できるようすすめていただいております。あと上重原保育園で今年度中に増築を行いまして、そこで0・1・2歳を26名増員する体制をつくっていきたいと思っています。あと、最後になりますが、7・8月に民間保育所の公募を行った結果、1社会福祉法人から応募があり、候補者として決定しております。132人規模で、0・1・2歳が38名ということで見込んでいます。合計103名の増員ということで対応を考えています。知立市の0・1・2歳の入所比率は全国と比べ7%ほど低い状態です。様々な理由で入所率が低いかもしれませんが、今後高くなってくる可能性もありますので、そういったことも踏まえて対応を検討していきたいと考えています。

(永田委員)

その保育所はこの前広報にでていたところですか。

(事務局：子ども課長)

そこは違います。広報にあった保育所は企業主導型保育所ですので、市は関わっておりません。お金を払って広報に掲載したというかたちです。

(蔭山会長)

時間がだいぶ迫っていますので、他の方の意見も聞きたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいですか。たしかに数値がないと評価しにくいとは思いますが、限られた時間の中でやっていくしかないのです、特に今ご意見がなければ協議は終わりたいと思いますがよろしいでしょうか。

なければ今後の手続きについて事務局から説明をお願いします。

(事務局：子ども課長)

はい。色々と貴重なご意見ありがとうございました。本日の会議で概ね承認をいただけたと思っております。本日ご意見いただいたところはこれから検討し、修正等をしてきます。その後、会長に承諾をいただいたうえで、パブリックコメントに進めていきたいと思っております。

(蔭山会長)

パブリックコメントの前に私に一度提出いただけるということで、今いただいた意見は今後検討していくべき課題ではありますが、すべて反映させるのは難しいと思いますので、そのあたりはご了承いただきたいと思っております。何かご意見がある場合はパブリックコメントでご意見をいただくということでもよろしいでしょうか。また、パブリックコメントで重要な意見が出て、修正が必要な場合は、もう一度会議を開く方向になると思っております。

(事務局：子ども課長)

今会長がおっしゃられたとおりパブリックコメントの結果、計画に大きな修正があった場合にはもう一度会議を開催させていただきたいと思っております。軽微の修正の場合には会長にご確認いただき、承認をいただき、計画の完成にしたいと思っております。その内容については、委員の皆様にもご報告させていただきます。

(蔭山会長)

最後に市長さんから何かあればお願いします。

(市長)

はい。本日も色々なご意見いただきましてありがとうございました。外国人の子どもに対することでひとつだけ申し上げておきます。知立市は7万人くらいの人口の中で5千人くらいの外国の方がいます。昭和地区が最も外国人が多い地区なのですが、高根保育園にも外国のお子さんが多く、本当にたくさんの取り組みをしてもらっています。小学校に上がりますと、今年からですが、サポート教員ということで先生の数を2人増やさせていただいています。あとはポケトークの配置をしたりといったことをやっておるわけですが、こういった取り組みは市だけでは財政的にも限界がありますので、国や県にも要請をしていっているところです。とりわけ、県に対しては、外国の子の多い学校に先生の加配をつけてくださいということを行っています。国に対しては3点で、1つは教員加配のことで、2つめは知立市ではかきつばた教室と呼んでおります、早期適応教室の制度化で、学校に入っても言葉も文化もわからないといったことがないように、1つグループで色々な年代の子が学ぶといった早期適応教室の場所や教員を国の責任で対応してほしいといった要望をしています。また、未就学の子どもたちを集めたプレスクールも国の責任で制度化させていただきたいということも、全国市長会などことあるごとに申し上げます。また、大人の方でも地域でのコミュニケーションが難しいということで、「昭和未来会議」という取り組みを地域コミュニティづくりのひとつとしてやっております。これは昭和地区で色々な取り組みをやっているのですが、例えば防災をひとつのキーワードとしてやっている「まもりんピック」という取り組みがあって、色々な国の方が来られて活動をやっております。それと「もやいこ農

園」ということで農園を1つ借りて、色々な国の方々が農園で作業をしたりと、「昭和未来会議」を通じて色々な取り組みを進めております。多文化共生はまだまだ課題が多いというところがありますが、色々な国の方々との交流を通じながら、前向きに知立市の特性でこれをいかしていまちにしたいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(事務局：子ども課長)

皆様長時間にわたりありがとうございました。これで第3回知立市子ども・子育て会議を終了したいと思います。

以上